

## 反射テスト 複素平面 証明 三角不等式 01

1. あらゆる複素数  $z$  に対して,  $\operatorname{Re} z \leq |z|$  を証明し, 等号条件も求めたい.  をうめよ.  $\operatorname{Re} z$  は  $z = x + yi$  ( $i$  は虚数単位) のときの実部である実数  $x$  を表す. また必要なら,  $z = x + yi$  の虚部である実数  $y$  を表す  $\operatorname{Im} z$  を使ってよい.  
(S 級 1 分 30 秒、A 級 2 分 20 秒、B 級 4 分、C 級 6 分)

### 証明

$\operatorname{Re} z, |z|$  共に実数である.

$\operatorname{Re} z < 0$  のとき, 不等式の右辺は  以上であるから, 不等式は成立. 等号を満たすことはない.

$\operatorname{Re} z \geq 0$  のとき, 両辺とも  以上であるから平方差で大小関係がわかる.

$$\operatorname{Re} z \leq |z| \Leftrightarrow |z|^2 - (\operatorname{Re} z)^2 \geq 0$$

$$\begin{aligned} |z|^2 - (\operatorname{Re} z)^2 &= z \cdot \text{} - \left( \frac{\text{}}{2} \right)^2 \\ &= - \frac{\text{}^2}{4} \\ &= \left( \frac{\text{}}{\text{}} \right)^2 \\ &= (\operatorname{Im} z)^2 \geq 0 \end{aligned}$$

以上から,  $\operatorname{Re} z \geq 0$  のときも,  $\operatorname{Re} z \leq |z|$

等号条件は,

$$\operatorname{Re} z \geq 0 \quad \text{かつ} \quad \operatorname{Im} z = 0 \quad \Leftrightarrow \quad z \text{ が非負実数 (0 以上の実数)}$$

2. あらゆる複素数  $a, b$  に対して,  $|a+b| \leq |a|+|b|$  を証明し, 等号条件も求めたい.  $\square$  をうめよ. 前ページの  $\operatorname{Re} z \leq |z|$  は証明なしで使ってよい.  
(S級3分、A級4分20秒、B級6分、C級8分)

### 証明

両辺が0以上であるから, 平方差をとる.

$$\begin{aligned}
 \text{右辺}^2 - \text{左辺}^2 &= (|a|+|b|)^2 - |a+b|^2 \\
 &= (|a|^2 + 2|a||b| + |b|^2) - (a+b)\overline{(\square)} \\
 &= (a\bar{a} + 2\sqrt{\square} + b\bar{b}) - (a\bar{a} + a\bar{b} + \bar{a}b + b\bar{b}) \\
 &= 2\sqrt{(\square)}(\bar{a}\bar{b}) - (\square + \bar{a}\bar{b}) \\
 &= 2\left(|\square| - \frac{\square + \bar{a}\bar{b}}{2}\right) \\
 &= 2\left\{|\square| - \operatorname{Re}(\square)\right\} \quad \dots \textcircled{1}
 \end{aligned}$$

$z = a\bar{b}$  と考えれば, 前ページの証明から,  $\operatorname{Re} z \leq |z|$  より,

$$\operatorname{Re}(a\bar{b}) \leq |a\bar{b}| \quad \Leftrightarrow \quad |a\bar{b}| - \operatorname{Re}(a\bar{b}) \geq 0$$

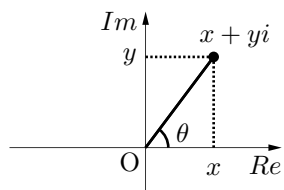
よって, ①は0以上となり, 題意は示された.

任意の複素数  $a, b$  に対して,  $|a+b| \leq |a|+|b|$ .

等号条件は前ページから,  $a\bar{b}$  が非負実数のとき.

# 反射テスト 複素平面 証明 三角不等式 01 解答解説

1. あらゆる複素数  $z$  に対して,  $\operatorname{Re} z \leq |z|$  を証明し, 等号条件も求めたい.  $\square$  をうめよ.  $\operatorname{Re} z$  は  $z = x + yi$  ( $i$  は虚数単位) のときの実部である実数  $x$  を表す. また必要なら,  $z = x + yi$  の虚部である実数  $y$  を表す  $\operatorname{Im} z$  を使ってよい.  
(S 級 1 分 30 秒, A 級 2 分 20 秒, B 級 4 分, C 級 6 分)



まずは知識事項. 左図における  $x$  が実部,  $y$  が虚部である.

★  $\begin{cases} \text{複素数 } z \text{ の実部 (real part)} & \operatorname{Re} z \text{ もしくは } \Re z \text{ と表す.} \\ \text{複素数 } z \text{ の虚部 (imaginary part)} & \operatorname{Im} z \text{ もしくは } \Im z \text{ と表す.} \end{cases}$

複素数  $z = x + yi$  ( $i$  は虚数単位,  $x, y$  は実数) が与えられれば,  $\operatorname{Re} z = x$ ,  $\operatorname{Im} z = y$  である.

★ 共役複素数  $z = x + yi \Leftrightarrow \bar{z} = x - yi$

よって次の公式が導かれる. ★ 実部  $\operatorname{Re} z = \frac{z + \bar{z}}{2}$       ★ 虚部  $\operatorname{Im} z = \frac{z - \bar{z}}{2i}$

どんな複素数  $z$  に対しても, ★  $z + \bar{z}$  は実数. ★  $z - \bar{z}$  は純虚数.

★ 絶対値の公式  $|z|^2 = z\bar{z}$

## 証明

$\operatorname{Re} z, |z|$  共に実数である.

$\operatorname{Re} z < 0$  のとき, 不等式の右辺は  $\square$  以上であるから, 不等式は成立. 等号を満たすことはない.

$\operatorname{Re} z \geq 0$  のとき, 両辺とも  $\square$  以上の実数であるから平方差で大小関係がわかる.

$$\operatorname{Re} z \leq |z| \Leftrightarrow |z|^2 - (\operatorname{Re} z)^2 \geq 0$$

$$\begin{aligned} |z|^2 - (\operatorname{Re} z)^2 &= z \cdot \square - \left( \frac{z + \bar{z}}{2} \right)^2 \\ &= z\bar{z} - \frac{z^2 + 2z\bar{z} + \bar{z}^2}{4} \\ &= -\frac{z^2 - 2z\bar{z} + \bar{z}^2}{4} \\ &= -\frac{\left( z - \bar{z} \right)^2}{4} \quad \dots \textcircled{1} \\ &= \frac{(z - \bar{z})^2}{(2i)^2} \\ &= \left( \frac{z - \bar{z}}{2i} \right)^2 \\ &= (\operatorname{Im} z)^2 \geq 0 \quad \therefore \operatorname{Re} z \geq 0 \text{ のときも, } \operatorname{Re} z \leq |z| \end{aligned}$$

等号条件は,

$$\operatorname{Re} z \geq 0 \quad \text{かつ} \quad \operatorname{Im} z = 0 \quad \Leftrightarrow \quad z \text{ が非負実数 (0 以上の実数)}$$

☆ ①をみて, 0 以下と考えてはいけない. ★  $(z - \bar{z})$  は純虚数である.

別解 1 上の証明は実は回りくどい.  $z = x + yi$  を用いればとても簡単である. 途中だけ示す.

$$|z|^2 - (\operatorname{Re} z)^2 = x^2 + y^2 - x^2 = y^2 \geq 0 \quad (\because y \text{ は実数})$$

別解 2 複素平面上で複素数  $z$  を考える.

$z$  が実軸, 虚軸以外にある場合, 斜辺  $|z|$ , 他の二辺を  $|\operatorname{Re} z|$ ,  $|\operatorname{Im} z|$  となる直角三角形を考えることができる. 直角三角形の斜辺は他の二辺より長いので,  $|\operatorname{Re} z| < |z|$ .  $z$  が虚軸の部分 (ただし 0 を除く) や, 実軸の負の部分にある場合, 不等式は成立.  $z$  が実軸の 0 以上の部分にある場合,  $\operatorname{Re} z = |z|$ .  $\Rightarrow$  等号条件は,  $z$  が非負実数のとき.

2. あらゆる複素数  $a, b$  に対して,  $|a + b| \leq |a| + |b|$  を証明し, 等号条件も求めたい.   をうめよ. 前ページの  $\operatorname{Re} z \leq |z|$  は証明なしで使ってよい. (S級3分、A級4分20秒、B級6分、C級8分)

### ★ 複素数の三角不等式

任意の複素数  $a, b$  に対して,  $|a + b| \leq |a| + |b|$

#### 証明

両辺が0以上であるから, 平方差をとる.

$$\begin{aligned}
 \text{右辺}^2 - \text{左辺}^2 &= (|a| + |b|)^2 - |a + b|^2 \\
 &= (|a|^2 + 2|a||b| + |b|^2) - (a + b)(\overline{a + b}) \\
 &= \left( a\bar{a} + 2\sqrt{\overline{a\bar{a}b\bar{b}}} + b\bar{b} \right) - (a\bar{a} + a\bar{b} + \bar{a}b + b\bar{b}) \\
 &= 2\sqrt{\overline{a\bar{a}b\bar{b}}} - (a\bar{b} + \bar{a}b) \\
 &= 2 \left( \sqrt{\overline{a\bar{a}b\bar{b}}} - \frac{a\bar{b} + \bar{a}b}{2} \right) \\
 &= 2 \left\{ \sqrt{\overline{a\bar{a}b\bar{b}}} - \operatorname{Re}(\overline{a\bar{b}}) \right\} \quad \cdots \textcircled{1}
 \end{aligned}$$

$z = a\bar{b}$  と考えれば, 前ページの証明から,  $\operatorname{Re} z \leq |z|$  より,

$$\operatorname{Re}(a\bar{b}) \leq |a\bar{b}| \Leftrightarrow |a\bar{b}| - \operatorname{Re}(a\bar{b}) \geq 0$$

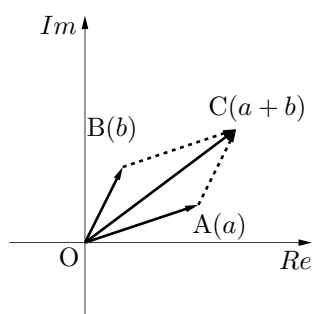
よって, ①は0以上となり, 題意は示された.

任意の複素数  $a, b$  に対して,  $|a + b| \leq |a| + |b|$ .

等号条件は前ページから,  $a\bar{b}$  が非負実数のとき.

☆複素平面は回転にも強い. この三角不等式を用いれば, ★**トレミーの不等式** などの証明にも力を発揮する.

#### 別解



### ★ 複素数の三角不等式

任意の複素数  $a, b$  に対して,  $|a + b| \leq |a| + |b|$

複素平面上に  $A(a), B(b)$  を考えて,  $(a + b)$  を表す点  $C$  を作る.

四角形  $OACB$  は平行四辺形になり,  $AC = |b|$  である.

$\triangle OAC$  の三辺の長さが,  $|a|, |b|, |a + b|$  となり,

三角形の三角不等式と同値であることがわかる.